

自ら学ぼうとしない子にとって評価は最も大きなはげみになっていると思うからである。児童を生かす評価という観点から、自らの学習を自らが評価するのが本来の姿であろうと考える。段階的なノート指導することにより、自らを自らが評価できるようとしたものである。

<第2段階のノート> N子(中位)

名前	名古屋市立22	おもな予想	
単元名		原因	
学習内容	自分の町でおきた大雪の原因	火災	1位(火災)
	団体おきた原因は雪	人のいはつ	2位(他の人のいはつ)
自分の考え方	大雪の原因は火災でなく、雪でつく。自分でつくってある。	はこのいはつ	3位(はこのいはつ)
		火あそび	4位(石炭ストーブのいはつ)
			5位(火遊びのいはつ)
自己たしかめ		問題	
1. 今日のあそびはほんと	<input checked="" type="checkbox"/>	1. ふくらむ	1. なぜ質をつけたか
2. 自分の考えを書きましたか	<input checked="" type="checkbox"/>	2. いつから?	2. 答えつけられたか
3. 駅前町でおきた大雪の原因をわかったか	<input checked="" type="checkbox"/>	3. 協力	3. なぜうきあひましたか
4. 大雪の原因を書いたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4. なぜ	4. なぜ
り書きやがけありましたか	<input checked="" type="checkbox"/>	5. なぜ	5. なぜ
ちよつけしてありますか	<input checked="" type="checkbox"/>	6. なぜ	6. なぜ

学習のめあてに対する自分の考えを記入する。子どもたちは、自分の考えをもって学習していくので目的が意識化される。そして自己たしかめの問題に答えた後、自己たしかめをする形をとった。

<第3段階のノート> N子(中位)

名前	名古屋市立22	おもな予想	の雨の日(ひを、あさでる)人毎日
単元名		車の駆けいん	のちづきをしらめうそをもじ
学習内容	消防署で消防じてふくださん	そく(まくへいさん)	1. がさいげんしんのけん
	直立筆をつくるのいき	ドバーロール	
自分の考え方	火事があきた時のくじんをしている		
自己たしかめ		問題	
1. あそびをしたか	<input checked="" type="checkbox"/>	1. T.Rを見たか	1. なぜ
2. 地図に家をかけたか	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 消防署を見たか	2. なぜ
3. 消防署で消したか	<input checked="" type="checkbox"/>	3. へこつ	3. なぜ
4. まくへいさんでいるか	<input checked="" type="checkbox"/>	4. 見回り	4. なぜ
つづりじょうのめあて		5. 立ち入り(けいり)の出入り	5. なぜ
1. おつかやすくくふらしがく。		6. クレーン	6. なぜ
		7. まわりの市町村と協力	7. なぜ
		して活動する	8. なぜ
		9. 原因(くわん)	9. なぜ
		10. 消防署	10. なぜ

第3段階のノートでは、全項目を自分で設定しているとは言っても、全員がこの様にできるということではなく、設定できない子に対しては、1つでもよいからと指示しておくと全員書けるようになる。

N子のノートを見ると、学習のめあてに「消防署ではふだんどんなことをしているのだろうか。」とあるのに対して、自己たしかめの項目3に「消防署で、ふだんどんな仕事をしているかわかったか。」と、きちんと設定しており、自己たしかめ能力の高まりを確認できる。

また、自己たしかめの下に「次のじゅぎょうのめあて」と、自分で記入しており、次時への意欲が感じられる。

<ノートの展覧会>

これは、友人のノートを見て歩くことを通して、自分のノートのとり方の反省(評価)をしたり、友人の良い点などを発見させるのに効果的であった。授業の終末2~3分程度、机上に広げたノートを見て回るということで、さほど負担にはならなかった。実施した後、子どもたちの考察に「もう少し、字をていねいにわかりやすくかけばよかった。」「赤ペンでやるところがきちんとしていて、私はぜんぜんだめでした。」と、自分のノートを評価し、反省する態度が生まれてきたのである。

<自分の考え方の輪読>

周囲の友人3~4人位で、お互いに読み合い、友人の考え方などを知ることができた。こうすることにより、自分の考え方なかかった事についての発見やその逆の場合もあり、考え方広がりが出てきた。